

NJ 素流協 News

平成23年2月28日

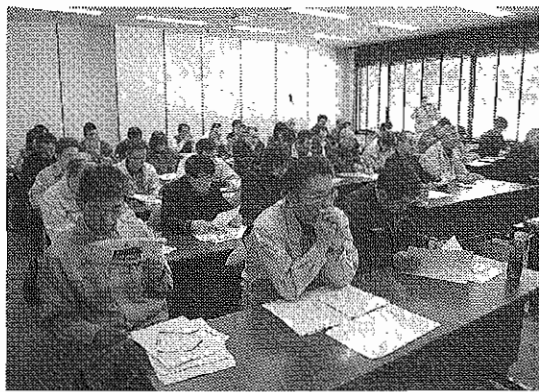
第74号

平成23年2月28日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)

TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

合法木材研修会、技術指導会を開催

合法木材供給事業「合法木材研修会」と素材・森林バイオマス資源流通コーディネート事業「技術指導会」を、二月二十五日(金)岩手産業文化センター アピオ(滝沢村)で開催した。



研修会

一 合法木材研修会

当組合の組合員は、林野庁策定の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」(H十八)に従い、合法木材供給事業者として認定を受け、丸

太を生産し供給している。今回の

研修は、前回の研修会(H二十一・九)以降に事業者として認定された組合員を対象として開催したが、

対象者以外の多くの組合員も受講した。講師は当組合外館経営企画

部長が務め、研修項目①「合法木材の必要性と合法木材制度の概要」

では、この制度の創設の背景と制度の概要を、②「合法木材の生産、

出荷、管理」では、合法木材生産の実際について説明がなされた。

二 技術指導会

この指導会は、造材規格を熟知して、需要者の要望する規格の丸太を的確に生産して供給するため、

及び、市場的に有利な採材をして、有利に販売する技術を習得することを目的に開催した。

研修項目「有利な丸太採材法」

の講師は岩手県森林組合連合会盛岡木材センター田口清治氏(林業

技士(森林評価))が務めた。

素材生産業者が合法性を証明するには：

森林所有者と話し合っ、法律で定められている手続きを行い、許可書等の写しを取得する必要がある。

具体的には

- ①保安林の場合 ⇒ 都道府県知事からの伐採許可書の写し
- ②森林施業計画を作っている民有林の場合 ⇒ 施業計画認定書の写し
- ③その他の民有林の場合 ⇒ 市町村へ提出した伐採届(適合通知書)の写し
- ④国有林の場合 ⇒ 合法性・持続可能性を証明する旨の記述を含む売買契約書の写し

田口氏は、針葉樹については、スギ、アカマツ、カラマツ各樹種の採材の仕方による有利性を、実際の販売価格を示して講義した。特に、根張り部分の採材の仕方が販売単価に及ぼす影響が大きい

ことを強調した。また、広葉樹丸太については、三十三樹種の採材方法と用途、特徴、径級別価格について実例を示して講義した。

次に、研修項目「合板工場集材工場向け丸太の規格」において当組合小野寺義晃部長は、合板工場・集成材工場向け丸太の規格について、

主要木材の需給動向

農林水産統計と 木材需給会議結果から

農林水産省が毎月公表する農林水産統計と、四半期ごとに開催する木材需給会議の結果をまとめた「主要木材の需給見通し」から、平成二十三年前半の木材需給動向を概観した。

近年の我が国の実質GDP成長率は、平成二十一年度が連続でマイナスだったのに対し、二十二～二十四年度は一・五～三％程度のプラス成長に戻ると予測されている。また新規住宅着工戸数も対前年同月比で昨年九月から今年一月まで五ヶ月連続プラスで

特に合板用材は丸太の両木口を挟んでかつら剥きすることから、長さが必要でないのは当然のこと、長すぎてもいけないこと、及び曲がりが大きいい丸太は不適であることを説明した。また、集成材用材でのトビクサレ(変色)による等級区分についても写真を示して説明した。

推移しており、昨年度の総数実績が七万五千戸だったのに対し、今年度は八一万七千戸と予測されている。これに伴い主要木材の需給動向も二十二年度から二十三年度にかけて増大する傾向を見せている。

一 国産丸太の需給動向

① 製材用丸太

現在東北、九州、北関東地方を中心に原木不足の状況が起こっている。これまで大幅な需要の落ち込みによる原木手当てへの不信感や、森林所有者が森林整備に特化している傾向があることなどが原因と見られ、一月の製材用丸太入荷量は前年同月に比べて二・八％減少した。なお製材用素材のうち一月の国産材生産量は八六万m³で、前

年同月に比べ三・五％増加している。今後出材は増加する見込みで、需要回復の傾向が続くと見られる。

② 合板用丸太

一月の生産量は前年同月に比べて普通合板で一・三％増加した。住宅着工戸数の回復により引き続き需要が見込まれる。

合板以外でも輸入製材品、構造用集成材は住宅着工の増減の影響を受けやすく、一～三月は季節的に減少するが、優良住宅取得支援制度における金利引下げや住宅エコポイント導入など住宅政策の効果等から、四月以降は堅調な需要が見込まれる。

二 合板製造と輸入

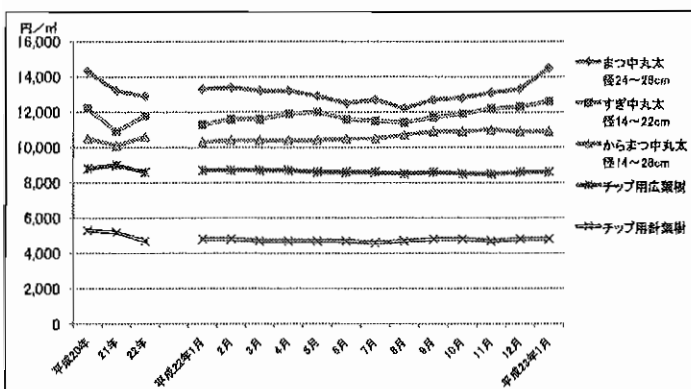
国内合板製造は、一月以降関東以西の戸建て住宅の需要が継続して見込まれ、堅調に推移する見通し。四月以降もこの傾向は続くと思われる。輸入合板は梱包向けとリフォーム向けの需要が堅調と考えられる。

三 構造用集成材製造と輸入

一～三月は輸入集成材の供給過剰感と不需要期であることから、国内製造は前期より少し落ち込む見通し。輸入

はユーロ安により若干増加する見通しで、為替に大きな変動がない限りこの傾向は続く。

なお丸太・製材品の輸出が大幅に増大する傾向で、特に中国向けが対前年比一〇・二％増、フィリピン向けが同一〇・一％増、アメリカ向けが同一八・八％増となっている。韓国向けは六八・二％の大幅減となった。国としては丸太のまま輸出するのではなく、製材品、住宅、家具等付加価値の高い製品の輸出を促進する方針である。



製材用(長級3.65~4.0m)及びチップ用素材価格の推移

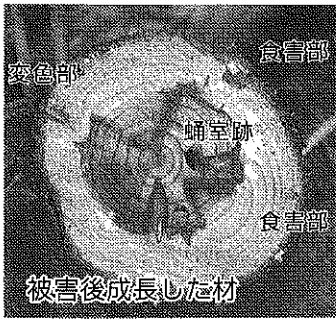
一葉

樹木の病害虫 ⑪

隠れ傷 1

左の写真はスギカミキリによる被害である。本誌六四号で紹介したが、被害は樹木の生長にはほとんど影響を与えない。被害による傷が小さい場合は、幹はこれを抱え込んだまま成長し、やがて食害跡や変色腐朽部を完全に巻き込んでしまい、一〇年も経過すると、外部から見分けが付かなくなる。

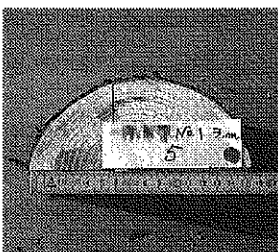
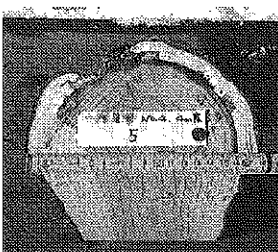
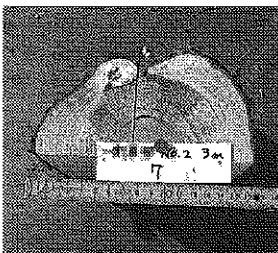
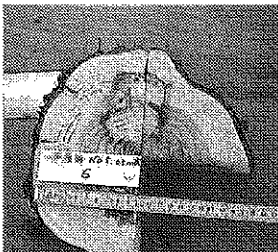
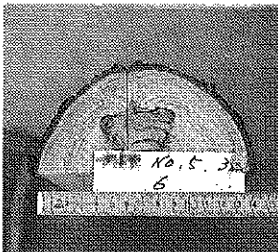
外見上樹木は立派に生長するが、被害跡が消えることは無い。間伐をするにも、立木を買うにも、これを見分けることは大変重要なことである。今回は、長期間樹皮に残る被害の痕跡から、幹内部の状況を判断する方法を紹介する。



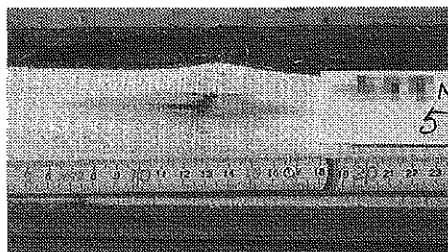
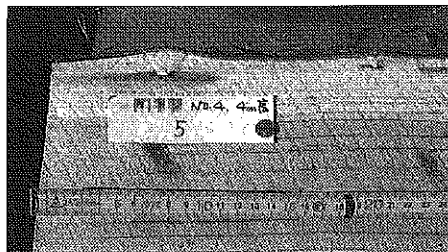
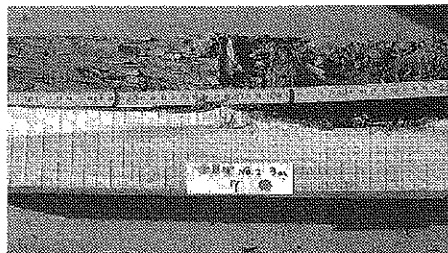
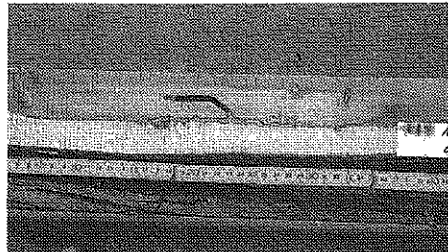
10年前の被害跡

樹皮に痕跡が残っているが、剥皮した幹表面では判別ができない

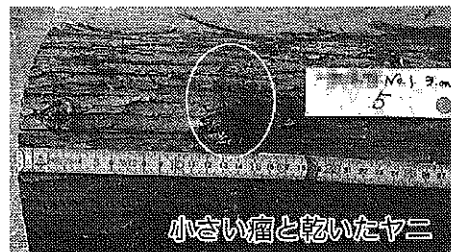
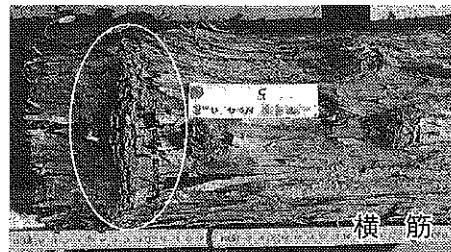
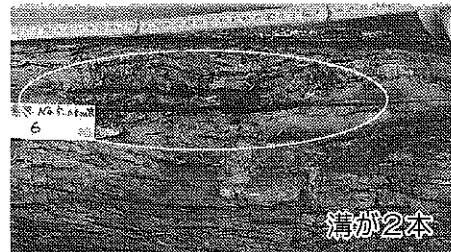
木口の状態



縦断面の状態



樹皮の状態



作業道散策
11

マンサク (満作)

早春、まだ雪が残っている頃、黄色い花を咲かせる灌木がある。

高さ5mぐらいになる落葉性の低木で、主幹は作らず、多数の枝を分岐させる。折紙を刻んだような細長い花弁を四枚付け、数個の花が集まって咲く。

山の中では、日当たりの良い斜面にひっそりと咲いているが、盛岡市の岩手公園などでは春の訪れを告げる風物詩として毎年新聞やテレビを賑わす。

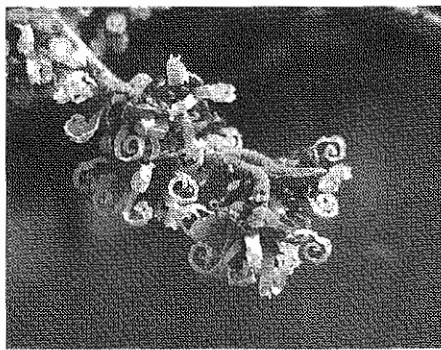


写真1 マンサクの花
咲き始めの花弁はクルクル巻いている

雪景色の中で枝いっぱい花を咲かせることから「満作」、あるいは、早春に「まず咲く」ことからこの名前が

付いたと言われている。

岩手県では、やはり早春に咲く野草「フクジュソウ」も「まんさく」と呼ばれており、区別するためマンサクを「木まんさく」、フクジュソウを「土まんさく」と呼んでいるところもある。

この木の若枝は弾力があり、折れにくいことから炭俵(岩手県では炭すこと言ふ)の上下の口柴に使われ、生皮を剥いで薪や手芝の結束にも使われた。飛騨高山の白川郷ではネソと呼ばれ、合掌造りの骨組みを縛るのに使うと言ふ。生の枝をねじって繊維をほぐして縄のようにして使うが、これは時が経つに従って硬く絞まる性質を利用した

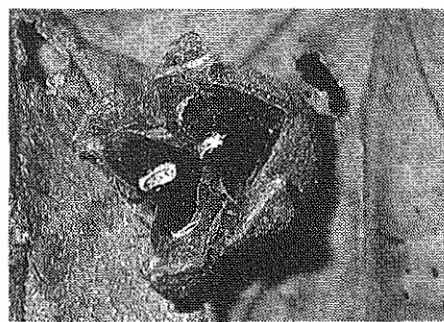


写真2 マンサクの種子
2個ずつ鞘に納まっており、鞘の乾燥によって勢いよく飛び出す

もので、祭りの時に神社に立てる幟の柱を縛るのに利用する地方もある。

樹体内の微量成分を分析して金鉾脈を探すのに使われるとも言ふ。

秋には葉が黄色に「紅葉」し、夕日を浴びて黄金色に染まる様は、

これまた見事なものである。種子は長さ5mm位で、黒い光沢があり、初雪の頃に弾けて飛び、

枯野にパチパチとかすかな音をたてる。残雪に咲き、初雪に種子を飛ばす。雪国に似合う花である。

冗談欄 受験こぼれ話

例年、今の時期は受験の季節。入試に關するエピソードを数種。

(志望校決定)

▽進路面談で志望校を聞かれたので、本命よりかなりランクの低い大学を2、3言ってみた。すると先生が一言「うん、分かった。それで滑り止めはどこにするんだ？」

▽更に、「〇〇大学を受けたいんですけど」と言うと、すかさず「記念受験だな」と言われてしまった。

▽大学に受験願書を貰いに行き、友人の分も頼まれていたので「2部下さい。」と言うと、事務員から「気持ちわかるけど、この願書は今年しか使えないんだよ。」と言われた。

(神頼み)

▽合格祈願を兼ねて友人と初詣に行った時。おみくじを引いた友人が「く」ってなんだ?」というので見てみると、「凶」の字を横向きに読んでいた。

(受験)

▽寒い入試の日スキーウェアを着て行った友人から「滑り出し順調」というメールが届いたが、良いのか悪いのか分らない。

かった。結果は、見事に滑っていた。

▽面接で「志望の理由は?」と聞かれた肥満気味の友人。「おそらく運動不足と食べ過ぎだと思います。」と答えていた。

▽かつては、阪神工業地帯が盛んであったが、最近では仙台や札幌などの地方都市でも発達してきたものは?」と聞かれ、「野球」と答えた友人は東京六大学志望だった。

▽そして、試験が終わったとき、試験監督の先生は「では、また来年。」と言って教室を出て行った。

(また、来年となつて)

▽予備校の先生は、最初の授業で数学の問題をスラスラ解きながら言った。「わかるかな?」「マァーこれが解ければ、ここには居ないよな」

▽僕の通う予備校には「交通事故にあつた生徒は、必ず大学に合格する」というジンクスがあり、4月早々交通事故を起こして入院している友人は羨ましがられ、「寝たきり浪人」と呼ばれている。

▽三浪に突入した大先輩は「僕の学力が上がるより、大学のレベルの上がる方が早いんだ。」と意を介していない。

平成23年2月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約4,480m³増加、カラマツが約550m³増加、アカマツが約350m³増加し、全体では約5,330m³増加している。昨年同月と比較すると、スギが約3,070m³増加、カラマツが約1,030m³減少、アカマツは約2,130m³増加し、全体では約4,170m³増加している。工場別ではホクヨープライウッドが前月比較で約3,440m³増加、昨年同月比較では約1,470m³増加、北日本プライウッドは前月比較では760m³増加、昨年同月比較では約1,480m³増加となっている。なお、これら合板用出荷量のうちシステム販売取扱量は前月より約150m³増加している。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は前月より約1,050m³増加、昨年同月より約420m³減少した。
- 3 今年度の年間計画量に対する11か月あたりの出荷量の割合（目標達成率）を91.7%とすると、今月の合板用出荷及び全体出荷実績は、計画数量を9.7~13.9ポイント上回る進捗状況となり、いずれも目標を達成した。

樹種	長級 (m)	販売先				計	今年度累計				
		合板用			その他		計	合板用	その他	計	
		ホクヨー プライウ ッド(株)	北日本プ ライウッ ド(株)	その他							小計
スギ	2.0	5,118	3,176	899	9,193	16,823	73,020				
	4.0	3,492	1,872	323	5,687		43,475				
	計	8,611	5,048	1,222	14,881		(1,079)	116,495	50.1	16,514	133,009
カラマツ	2.0	3,179	1,173		4,352	6,484	60,473				
	4.0	1,270	634		1,904		28,925				
	計	4,449	1,807		6,256		(51)	89,399	38.5	2,250	91,649
アカマツ	2.0	2,519	226		2,745	3,873	21,823				
	4.0	592	68		660		3,908				
	計	3,111	294		3,405		(0)	25,731	11.1	1,166	26,897
その他針						55	(62)	0.0	236	298	
広葉樹						47	62	0.3	951	1,589	
合計		16,171	7,149	1,222	(1,131) 24,542	2,740	27,282	(13,438) 232,324	100.0	21,119	253,443
目標達成率(%)								105.6		70.4	101.4
計画量								220,000		30,000	250,000
バイオマス用針葉樹チップ材 (単位: トン)											169.3

長級2.0には2.1を含む、() はシステム販売取扱量(内数)



春のアルバム (写真・構成 佐藤平典氏)